

アラブ首長国連邦、オマーンの植物誌（3） 豊かな砂漠と厳しい砂漠

UAEはその国土の大部分を砂で覆われ、様々に異なる砂漠を見ることが出来る。一口に砂漠と言っても一様ではなく、白い砂漠、赤い砂漠、大きな砂漠、小さな砂漠、或いは豊かな砂漠、厳しい砂漠といったように様々である。砂漠の色の違いは砂の成分の違いによる。白い砂漠は炭酸カルシウムを多く含み、赤い砂漠は砂に酸化鉄が付着し赤く見える。砂の粒径や供給量、風の強さや方向、あるいは障害物の有無といった諸要因が、砂丘の大きさを決めている。それでは豊かな砂漠と、厳しい砂漠の違いとは何だろうか。

現在のアラビアでは、砂漠の豊かさは石油によってもたらされるが、自然の砂漠の豊かさは、水とそれによってもたらされる緑にある。UAEでは多くの植林地を見て廻ったが、もともと厳しい砂漠に、いくら人為的に木を植えても、そこは厳しい砂漠のまま、自然の砂丘の豊かさには程遠いものであった。

豊かな砂漠に共通して言えることは良質な地下水が豊富にあることだ。そうした砂漠では地下水位まで根を伸ばし樹木が生育し、それらの樹木は小さな群落を作り、そうした小群落はパッチ状に広がる。それをとりまくようにブッシュ状の灌木が生え、粗いながらもブッシュは面状の広がりを見せる。冬の雨の後、ブッシュの周辺には草花が芽吹く。豊かな砂漠とはそんなイメージである。一方、厳しい砂丘は地下水に恵まれず、植生は皆無か絶無で、塩性植生が僅かに見られる程度である。

しかしながら豊かな砂漠でも、厳しい砂漠でも一様に雨は降り、温度条件も同等である。しかし季節の降雨のみに依存している草花でさえ、豊かな砂漠では、厳しい砂漠に比べ豊富にみられる。それは、豊かな砂漠では豊かな植生により様々なタイプの植物が互いに影響し合い環境を緩和しているからと考えられる。即ち良質な地下水に恵まれた、豊かな砂漠では地下水位まで根系が達し生育している樹木が所々にあり、その陰の落ちる所や、砂丘が風避けとなる所にブッシュ状の植生（地下水まで根系が達しているかは不明）が広がり、そうしたブッシュに覆われた地面の地温は更に下がり、それにより降雨による水をよく保持し、また草花の種子をよく捉え、草花の揺りかごととなり、冬の雨の後には様々な草花が咲く。

そんな頃、ベドウィンたちは自分たちの家畜を緑豊かな砂漠に連れてきたらと想像される。現在でも年老いたベドウィンは食用になる植物の芽を集めたり、種を採ったりしている。

水資源の豊富な植生に恵まれた砂漠は、乾燥地では非常に貴重で、そうした場所はしばしば地下水開発や農場開発の舞台となる。そのような開発は貴重な植生を保ちつつ行われなければならない。また、植生の豊かな所から植被を拡大すると言った緑化はUAEのような極乾燥地でも可能と思われ、それは最も無理のない緑化手法と言える。



豊かな砂漠：様々な植物が見られる



厳しい砂漠：ほとんど植生は見られない。奥の湿地は塩性湿地。